



さかもと

さわやかに かがやいて もくひょうもって ともにあゆもう

<http://www.edu.city.yokohama.jp/es/sakamoto-es/index.htm>

日なたは110℃、日陰は-170℃

校長 神倉 美智子

9月28日(月)のことです。久しぶりに午後7時前に学校を出て帰宅の途につきました。校門を出て、ふと空を見上げると、大きくて美しい満月が、皓々と輝いて東の空に浮かんでいます。そのあまりにも見事なスーパームーンに感動し、お月見をしながらしばらく歩いてみたくなりました。(幸いに我が家はお月様の浮かぶ、東の方角だったので。)

道々、「そういえば昨日は中秋の名月だったなあ。でもテレビのニュースで見た月は、まだ上が少し欠けていたっけ。」とか、「なんてきれいなんだろう。あそこに行ってみたいなあ。」
「月の表面温度は何度くらいだったっけ…」などと、ぼんやり考えながらひたすら月の方向を目指しました。最初は上ばかり見ていましたが、やがてまわりの風景にも目を向け、おいしそうなお店を発見したり、普通った店が変わってしまっていることに気づいたり、こんなところにお寺が?と驚いたりしました。涼しくなった秋の風を感じ、草むらの虫の声に気づくなど、仕事に追われている日常を忘れ、心がリフレッシュできた1時間になりました。

また、歩きながら、先週末に個別支援級の子もたちと一緒にいった、宿泊体験学習のことを思い出していました。個別支援級の子もたちは、区内の他校と合同で、毎年体験学習に行っています。保土ヶ谷区には20の小学校がありますが、この日はその半分の10校、合計121人の子もたちと50人の教師が4台のバスに分乗して「上郷・森の家」に行きました。

坂本小からは1年から6年まで19人の子もたちが参加しました。私はほぼ毎年一緒に行っていますが、この行事をととても楽しみにしています。個別支援級の体験学習は、時間にゆとりを持って計画されていますので、あまり子もたちがせかされるということがありません。ここでは時間がゆったり流れる感じがします。その中で、子もたちはそれぞれの個性を発揮して、自然体で過ごしています。多くの友達の中で過ごしますので、低学年がぐずったり、友達とけんかになったりといったトラブルも時には起こります。そんなときも、多くの場合は、上級生が優しく声をかけるなどして、子もたちは自分たちで解決しようとしてます。異学年の集団の良さが発揮される場面も多く見られます。

この2日間で、私は参加した子もたちの光る個性がとてもよくわかりました。誰もが皆、得意なことと苦手なことをもっています。ある分野では、私などよりもずっと優れた才能を発揮して見せてくれます。驚いたり、感心させられたりすることもたくさんありました。これも、計画に追われることなく、ゆとりを持って子もたちに関わられた成果だと思えます。

個別支援級の体験学習には、時間的にも、人的にもゆとりがあります。「這えば立て、立てば歩めの親心」という言葉がありますが、私たちは少しでも多くのことを学ばせたい、多くの経験をさせたいと思い、盛りだくさんの計画をしがちです。また、教職員も仕事に追われ、余裕のない毎日を過ごしていますが、大人にも子もにもゆとりは必要なものだ、満月を見ながら改めて感じた帰途となりました。

(ちなみに表題は月の表面温度です。最後まで読んでくださってありがとうございました)

